

中津山ブレーブス

第9回ジュニアメジャーベースボールリーグメジャーメジャークライムックスリーグ優勝



団員募集

現在、中津山ブレーブスでは団員を募集しています。週2日、火、木曜日の午後6時30分から、冬季は中津山小体育館、春から秋は吉田球場で練習しています。本気でやりたい人、楽しみたい人、野球が好きな人大歓迎です。見学は自由ですので、ぜひ足を運んでください。
連絡先：090(4552)4482 大沼まで

第9回ジュニアメジャーベースボールリーグメジャークライムックスリーグ優勝。メジャー大会は、県下約100チームが参加。4月から予選リーグ戦が始まり、そのうち勝ち点上位の32チームが11月末の決勝トーナメントへ駒を進める。ブレーブスは予選リーグを7位で通過。

初戦の荒巻少年野球クラブ(仙台)を3-0で下し迎えた2回戦。浮島サザンカジュニアース(仙台)との対戦は「この試合を制したことが、優勝につながりました」と大沼毅監督は振り返る。

ブレーブスは、1番菅原翔愛がリードオフマンで、2番主将の及川凌平、3番阿部由宇希、4番菅原理希の主軸が打ち点を取るチーム。特に及川と阿部は今シーズン2人で30本以上の本塁打を放っている。しかしこの試合、制球力のよい相手投手の前に自慢の打線は沈黙。逆に、浮島打線がブレーブスを苦しめる。初回、2回となんとか切り抜けて来たものの、3回表に3ランを浴び先制を許す。

運命の4回裏。時間制で競われるこの大会、60分を超えて次の回には入らない。すでに60分を経過していたため、この攻撃が最後となる。ブレーブスは走者を出すも、2アウトに追い込まれる。しかしここから怒涛の反撃が始まる。

6番梅澤尚平が単打で出塁。走者1、2塁で7番千葉優主樹が適時打を放ち1点を返す。アウトになれば即試合終了の重圧をはね返し、8番櫻井芳樹が同点適時打となる3塁打。そして9番安部龍斗。球を見極め無心でフルスイング。打球は3塁手の頭を超え、3塁走者が生還。下位打線の見事な4連打で鮮やかなサヨナラ勝ちを収めた。

及川主将は「6年が打てずに苦しんでいたところ、5年生が助けてくれました。これがブレーブスの全員野球です」と胸を張る。

準々決勝、準決勝と強豪たちとの厳しい試合を、大会中に身に付けた勝負強さを発揮し勝ち抜いた。決勝の相手は奇しくも、同じ地名の中津山ツイスターズ(石巻)。

決勝は、3試合で競われ、先に2勝したチームが優勝となる。第1戦はブレーブス打線が爆発。3番阿部の本塁打など6-1で完勝した。続く第2戦は1-1の引き分けから特別延長へ突入。延長では3点の先行を許すも、裏の攻撃時にまたも打線が爆発。最後は3番阿部のサヨナラヒットで優勝をつかんだ。

「この優勝は、選手たちの頑張りのもとより、市内の大会で佐沼小ジャイアンツが壁となり立ち上がったからこその」と好敵手を称える大沼監督。及川主将の「ジャイアンツに負けた悔しさを忘れなかったから優勝できました」との言葉に全員がうなづいた。

ブレーブスは英語で勇者を意味する。勇者は、絶対的に強い者を表す言葉ではない。自分たちの弱さや足りない部分を知り、それでも勇気を持って何かを成し遂げようとする者を勇者と呼ぶ。

彼らは真の「勇者」を目指し、努力の日々を続けていく。